

第4回交通渋滞実態調査について

1 目的

昨今の人口増加及び企業立地に伴い、町内全域で朝夕の通勤時間帯をはじめとして、交通渋滞が発生していることを踏まえ、その状況を調査し、把握することによって、今後の渋滞対策の基礎資料とすることを目的とする。

2 日時及び箇所数《天候》

東部地区：令和7年4月21日（朝）9箇所 （夕）10箇所 《晴れのち曇り》

西部地区：令和7年4月22日（朝）7箇所 （夕）9箇所 《曇りのち雨》

南部地区：令和7年4月22日（朝）4箇所 （夕）3箇所 《曇りのち雨》

※（朝）6:30～9:00 （夕）17:30～19:30

3 調査方法

（1）交差点の滞留長測定（15分間隔 朝11回測定、夕9回測定）

（2）右折状況計測（21日朝のみ15分間隔 11回測定）

（3）渋滞状況撮影

4 結果（※滞留長は、過年度調査との比較のため、朝7:00～8:30と夕17:30～19:00の時間帯に実施した7回測定の平均の延長にて算出）

（1）通勤時間帯

前回（第3回目）の滞留長と比較して、調査対象箇所20箇所のうち、増加が14箇所、減少が5箇所、変化無しが1箇所であり、全体で約+9%（各交差点で約-50%から+100%）の増加率となった。（各地区の詳細は次のとおり）

① 東部地区（9箇所）において、特に増加が大きかったのは、町道南方大人足線（調査箇所③）であり、国道57号からセミコンテクノパーク方面への滞留長が+100%（417m→836m）であった。

また、県道大津植木線（調査箇所①）は、熊本市方面から大津町方面への直進車線の滞留長が昨年同様に長い結果（1,057m→1,157m）となった。

昨年度に南方交差点改良工事で左折レーンを整備した国道57号は、調査箇所⑤の滞留長が-40%（745m→446m）と減少した。

その他の交差点は、-50%から+47%であった。

通勤車両は7:00頃から増え始めており、8:30頃を過ぎると減少傾向となった。

- ② 西部地区（7箇所）において、県道辛川鹿本線（調査箇所①）が合志市方面からの滞留長が+62%（314m→509m）、町道中迎原線（調査箇所②）が熊本市方面からの滞留長が+91%（141m→270m）と増加していた。

その他の交差点は-41%から+26%であった。

8：30頃を過ぎると通勤車両が減少傾向となった。

- ③ 南部地区（4箇所）において、0%から+21%とやや増加傾向であった。

8：30頃を過ぎると通勤車両が減少したが、国道57号交差点は9：00頃まで滞留があった。

（2）退勤時間帯

前回（第3回目）の滞留長と比較して、調査対象箇所22箇所（新規2箇所）のうち、増加が7箇所、減少が13箇所であり、全体で約-8%（各交差点で約-85%から+758%）の増加率となった。（各地区の詳細は次のとおり）

- ① 東部地区（10箇所）において、特に増加が大きかったのは、県道大津植木線（調査箇所⑦）であり、セミコンテクノパーク方面からの滞留長が+758%（71m→609m）と、令和5年に第2回調査をした717mと同程度の滞留長を示した。

また、県道熊本菊陽線（調査箇所③）は、大津町方面からの滞留長が+53%（125m→191m）となった。

昨年度の南方交差点改良工事で右折車線を整備した町道南方大人足線（調査箇所①）は、セミコンテクノパーク方面からの滞留長が-85%（644m→96m）と大きく減少した。

その他の交差点は-52%から-5%と減少傾向であった。

- ② 西部地区（7箇所）において、特に増加が大きかったのは、県道新山原水線（調査箇所③）であり、大津町方面からの滞留長が+192%（153m→446m）であった。

また、県道熊本大津線は、花立地区（調査箇所⑦）の交差点において、大津町方面からの滞留長が+69%（318m→539m）と増加となった。

その他の交差点は、-61%から+38%であった。

- ③ 南部地区（3箇所）において、-8%から+70%であった。

（3）右折矢印信号

右折矢印信号における通過台数については、昨年度から大きな変化は無かった。県道大津植木線については、右折矢印の現示がされても、本線の渋滞により右折車両が交差点に進入できない時間帯もあった。

5 考察

第3回目の調査（令和6年4月）と比較すると、昨年度、国と連携して改良工事に取り組んだ南方交差点においては、朝夕ともに滞留長が減少した結果となり、整備の有効性を確認することが出来た。

一方で、町道南方大人足線の通勤時間帯において、セミコンテクノパーク方面への滞留長が増加した。これは南方交差点の交通が円滑になったことにより、町道への先詰まりが大きくなったことが要因と考えられる。

この対策については、現在、熊本県と連携して、国道57号とセミコンテクノパーク周辺を南北に接続する町道菊陽空港線（県道新山原水線）の延伸工事を、令和8年度完成に向けて進めており、道路が供用されると南方大人足線の交通が分散されて改善するものと見込んでいる。

また、県道大津植木線においては、前回の調査から大きな増加は見られなかったものの、滞留長が依然として長い状況であり、そこに接続する県道辛川鹿本線や町道にも渋滞の影響が及んでいることを確認した。その要因としては、通勤車両や工事、運送車両が年々増加していることが考えられ、その解消には、国で取り組まれている中九州横断道路や県において令和10年度完成を目標に進められている大津植木線の多車線化及び合志ICアクセス道路の整備が必要不可欠と考えている。

なお、光の森周辺の県道住吉熊本線及び新山原水線においても滞留長が長い状況であったが、これらの路線では、県が車の流れを良くする取り組みとして、交差点改良や信号制御の最適化を行う短期的な対策の検討を進められている。

現在、町の渋滞対策としては、道路整備等のハード対策が完了するまでの間、ソフト対策として企業と連携しながらセミコン通勤バスの利用促進や時差出勤による通勤時間の分散化を図っており、引き続き拡充を進めていくことが重要と考える。

今回の調査は、現在対策に取り組んでいる道路に関して交通渋滞が顕著であったことから、道路施策の方向性が正しいとの裏付けを示す結果となっている。

そのことから、今後も交通渋滞実態調査を継続していくこととしており、県や関係自治体、セミコン協議会等の関係機関と情報共有をしながら、道路整備の効果や課題の検証に活かしていきたいと考えている。